

『A Iに思う』

「A Iで美空ひばりを復活させよう」というプロジェクトを扱った番組を見ました。
バーチャルアイドルで有名な「初音ミク」のような感じかなと想像していましたが、プロジェクトの目指すところは、それを遥かに超えるものでした。

復活した美空ひばりさんに、「一夜限りの新曲披露コンサートを実現させよう！」という企画でした。新曲ですから、当然のことながら、歌詞も曲もこれまでにない全く新たなものです。
曲は公募されたものから選ばれました。歌詞は、「川の流れるように」の作詞者：秋元 康氏。

このプロジェクトの最大の壁は、「A Iによる合成音声で、どこまで美空ひばりさんの歌声を再現できるか」でした。A Iは、レコードやCD等の膨大な音源を分析し、次々とひばりさんの歌声の“特徴”を見つけ出しました。ここで活躍したのが「ディープラーニング」というシステムです。このシステムの登場が、A Iを飛躍的に発展させたと言われています。

ちなみに、にわか仕込みですが、「ディープラーニング」とは、コンピューター上で人間の脳の神経回路を模して作られたシステム（“ニューラルネットワーク”と言います）を何層にも重ねる（深くする）ことで作られたシステムのことで、コンピューターが自ら“特徴”を見い出すことができ、人間に匹敵するような判断を行うことができるそうです。したがって、「ある指示を出すことで、その後は、A Iがどんどん分析し学習し、膨大な情報の中から、なにがしかの法則を見つけ出して何らかの判断をする、もしくは判断材料を提示する」という感じなのだろうかと想像しています（あくまで想像で、的をはずしているかもしれません）。

さて、番組のクライマックスは、もちろんA Iによって復活した美空ひばりさんが新曲を披露する場面です。CGで作られた本物そっくりな姿で現れた美空ひばりさんが新曲を歌いました。特に“ひばりファン”でもない私ですが、その歌声や語りを聞き、素直に感動しました。本当に、美空ひばり本人が歌っているとは思えませんでした。このプロジェクトに携わった方々も皆、「もう一度、美空ひばりに会えた」と感動し涙を流されていました。

「こんなことがA Iはできるのか！」と、驚きました。
将棋や囲碁やチェスの世界では、すでにA Iは人間を凌駕していますが、まさか、クリエイティブな領域で人を感動させることができるとは、信じ難いものがありました。その一方で、A Iに対して末恐ろしい脅威を感じました。

A Iの進化により、「子どもの65%は将来、今存在していない職業に就く」とか「今後10年から20年程度で半数近くの仕事が自動化される可能性が高い」という予測を、ある学者は報

告しています。

これも、ある大学の先生から聞いた話ですが、「コールセンターの仕事は、自動化されますよ。様々な質問や要望、クレーム等、AIがパターンを学習し、女性の声で適切に対応させることを企業は考えています。“傾聴・受容・共感”を基盤とした高いコミュニケーション能力が必要なカウンセリングでさえ、一次カウンセリングは機械にさせ、そこで解決できなければ、人間によるカウンセリングにというシステムを開発中の企業もあります」とのことです。

機械ができることは機械に任せた方が、ミスもないしコスト削減にもなるだろうし、企業にとってはメリットが大きいのは理解できますが、人間の仕事をAIにどんどん奪われていく感じがして、個人的には何とも受け入れ難い気持ちが正直あります。「まるで脅されているみたいだな。AIは、人類の敵か？」と、ついついAIに対して悪感情を抱いてしまいます。（ただ、これまでも技術革新により雇用環境の変化がもたらされ、多くの仕事がなくなったということは承知してはいるのですが・・・）

2045年には、AIが人類を超える「シンギュラリティ」に到達するという予測もあります。この予測などは、私は到底受け入れ難く、「そんなことはありえない。人類の知性を侮るな」と声を大にしてしまいます。ただ、一方的な批判や敵視は、「思考停止」状態に陥りますので、自分の立場を明確にしつつも、相手を理解することは大事なことだと思っています。

例えば、これからの日本の農業には、AIは欠かせないと思います。農家の加速度的な減少と高齢化への対応策として、AIによる自動化はとても有効な手段です。医療分野でも新薬開発や治療技術において、また身近な天気予報や気候変動の予測による効果的な防災において、その活用が期待されます。おそらく、今後の日本の急激な人口減少と超少子高齢化に起因する様々な問題への解決の糸口の発見にも、AIは力を発揮するものと推測しています。また、AIによる技術革新により、新たな仕事が多く生まれる可能性はあるそうです。

多くの識者が、「AIは道具です。AIが出した（あるいは選択した）結果を、最終的には人間が判断しますし、その判断が大事になります」と言われます。私も、同様の考えであり、「そうであって欲しい」と願っています。

「AI vs 人類」ではなく、「AIと人類の共存」あたりが“落とし所”ではないのかなと思っています。人間が、適切な目的設定や判断ができることがより一層求められます。そのために、謙虚にそして広く学び続けることが大事です。「なぜ？」と問う力を持ち、それに磨きをかけていくことがとても重要なことと考えます。

ある専門家は、「今後は、あらゆる仕事が科学技術、特に先端AI技術とは無縁でいられない」と提言されています。自称「ネット難民」の私が、AIについてコラムを書くなど、お門違いなことはわかっていますが、何かの機会に一度は自分なりに向き合っておかなければとの思いから書きました。

漠然と怖れるだけでなく、相手を知ること、開ける道もあるかと思っています。